

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 北海道縦貫自動車道 <small>ななえ おおぬま</small> 七飯～大沼	事業区分 高速自動車国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局																
起終点 自： <small>ほっかいどうかめだ ななえ にやま</small> 北海道亀田郡七飯町仁山 至： <small>ほっかいどうかやべ もり あかいがわ</small> 北海道茅部郡森町赤井川	延長 10.0 km																	
事業概要 北海道縦貫自動車道は、函館市を起点として室蘭市、札幌市、旭川市、士別市、名寄市等を経由し稚内市に至る延長約681kmの高速自動車国道である。 このうち七飯～大沼間は、七飯インターチェンジから大沼公園インターチェンジに至る延長10kmの事業であり、高速ネットワークの拡充による道央圏と道南圏の連携機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、物流効率化等の支援を目的とした道路である。																		
H17年度事業化	H一年度都市計画決定	H17年度用地着手																
H一年度工事着手																		
全体事業費	約914億円	事業進捗率 9%																
計画交通量	10,900台/日																	
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B/C</td> <td style="width: 15%;">(事業全体) 1.2</td> <td style="width: 15%;">総費用</td> <td style="width: 15%;">(残事業/事業全体) 574/663億円</td> <td style="width: 15%;">総便益</td> <td style="width: 15%;">(残事業/事業全体) 771/771億円</td> <td style="width: 15%;">基準年</td> <td style="width: 15%;">平成23年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(残事業) 1.3</td> <td></td> <td> (事業費：557/645億円) (維持管理費：18/18億円) </td> <td></td> <td> (走行時間短縮便益：663/663億円) (走行経費減少便益：86/86億円) (交通事故減少便益：23/23億円) </td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	B/C	(事業全体) 1.2	総費用	(残事業/事業全体) 574/663億円	総便益	(残事業/事業全体) 771/771億円	基準年	平成23年		(残事業) 1.3		(事業費：557/645億円) (維持管理費：18/18億円)		(走行時間短縮便益：663/663億円) (走行経費減少便益：86/86億円) (交通事故減少便益：23/23億円)			
B/C	(事業全体) 1.2	総費用	(残事業/事業全体) 574/663億円	総便益	(残事業/事業全体) 771/771億円	基準年	平成23年											
	(残事業) 1.3		(事業費：557/645億円) (維持管理費：18/18億円)		(走行時間短縮便益：663/663億円) (走行経費減少便益：86/86億円) (交通事故減少便益：23/23億円)													
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.01～1.3 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.2～1.5 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.1～1.3 (事業費±10%) 事業費：B/C=1.2～1.5 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1～1.2 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.2～1.4 (事業期間±20%)																		
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①拠点都市間の利便性向上 ・道南・道央圏における、拠点都市間の利便性向上が期待される。 ②農水産品の流通利便性向上 ・道南圏で水揚げされるまぐろの流通利便性向上が期待される。 ・七飯町で生産されるカーネーションや北斗市で生産されるねぎ等の流通利便性向上が期待される。 ③救急搬送の安定性向上 ・高次医療施設への救急搬送の安定性向上が期待される。 ④災害時の緊急輸送ルートの強化 ・災害時における迅速な救急搬送や救援物資等の輸送に資する道路ネットワークの多重性が確保される。 ⑤CO ₂ 排出量の削減 ・自動車からのCO ₂ 排出量9,280(t-CO ₂ /年)の削減が期待される。																		
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 函館市など2市16町の首長等で構成される「北海道縦貫自動車道建設促進道南地方期成会」等より、早期整備の要望を受けている。 知事の意見： 高速ネットワークの拡充による道央圏と道南圏の連絡強化により地域間交流の活性化や物流の効率化が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。																		

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。
 なお、3便益以外の地域の特殊性等を考慮した便益について、引き続き検討されたい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成17年4月 旧森町と砂原町が合併し森町が誕生
- ・平成17年10月 旧八雲町と熊石町が合併し八雲町が誕生
- ・平成18年2月 上磯町と大野町が合併し北斗市が誕生
- ・平成18年11月 北海道縦貫自動車道 国縫IC～八雲IC供用
- ・平成21年10月 北海道縦貫自動車道 八雲IC～落部IC供用
- ・平成21年11月 函館・江差自動車道 北斗中央IC～北斗富川IC供用
- ・平成23年11月 北海道縦貫自動車道 落部IC～森IC供用予定
- ・平成23年度 函館・江差自動車道 北斗富川IC～北斗茂辺地IC供用予定
- ・平成24年度 北海道縦貫自動車道 森IC～大沼公園IC供用予定
- ・平成27年度の完成をめざし北海道新幹線新青森駅～新函館駅間整備中

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成17年度に事業化され、用地進捗率84%、事業進捗率9%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や工法の変更等に変更はないが、引き続きコスト縮減に取り組んで行く。

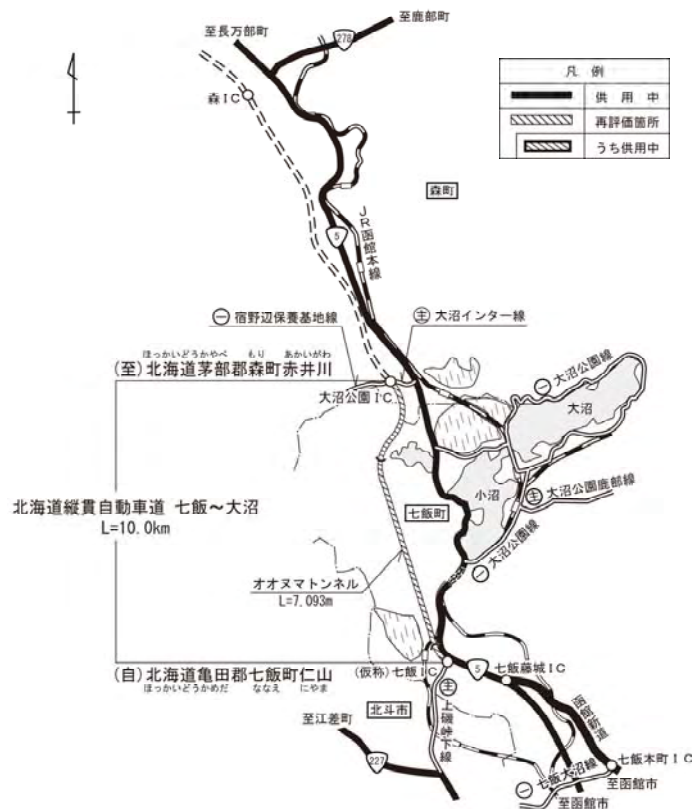
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。